

1 現状と課題                      は、インクルーシブな教育の観点から見たよさ

		須坂支援学校	ゆめゆりの丘分教室	はなももの里分教室
設置概要		須坂市の強い要望で、須坂小学校内に須坂市立の特別支援学校として開校 小学部3教室(16名)、中学部2教室(15名)を利用。	通学の保障・負担軽減を目的に、佐久西小学校、佐久穂町立佐久中学校に設置(H18) 統合された佐久穂小中学校内に設置(H27)4年目 小学部1部屋、中学部1部屋、作業室1部屋を利用。	通学の保障・負担軽減を目的に、中沢小学校(H19)、中学校(H21)に設置 小学部1部屋、中学部2部屋(1部屋は、パソコン室、職員室共用)を利用
		小学校長(須坂小学校と兼務) 教頭 1 教員 7 小学部 16 中学部 15 教員 6 養護教諭(助教諭) 1 事務 1	主任 1 教員 3 小学部 6 中学部 6 教員 3	主任 1 教員 5 教員 2 小学部 10 中学部 3
施設設備面 共用のよさ 課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学部の教室は、一年生と同じ並びになっており、前庭で日常的に遊びを通して関わりが持てている。</li> <li>○床の改修等学習環境について配慮していただいている。</li> <li>○小学校職員室に分教室の連絡用の棚があり、日報やお便り等毎日の情報を共有している。教頭同士の連絡は毎朝行う。</li> <li>▲武道場等があり、日常的に外部の方が敷地内に入出入りしている。安全面の心配を感じる。(問題になったことはない)</li> <li>○プール、体育館等の施設を供用することができてよい。</li> <li>○保健室の利用は可能である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中学校との施設の利用は、年度末に翌年度の使用について調整している。</li> <li>○給食を小中学校(自校給食)から提供いただいている。</li> <li>○小学校体育館、中学校体育館(ギャラリー)は中学部マラソンとして使用。</li> <li>▲保健室の代わりに、職員休養室を児童生徒の休憩スペースとして利用可。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽室、校庭、体育館等時間割を組み、利用することができている。</li> <li>○プレイルームは、午後の時間帯を分教室児童の活動場所として位置づけていただいている。</li> <li>○遊具をPTAが中心となり、制作していただいた。</li> <li>▲小学部の人数が増え、手狭になってきている。(来年度更に増の見込み)</li> <li>○小学校の時間で、特別支援学校も活動を切り替えている。</li> </ul>
児童生徒 交流及び 共同学習	日常	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プレイルーム交流を行っている。小学部の活用しているプレイルームに休み時間に小学生が遊びに来ることで、日常的な交流となっている。</li> <li>○昇降口が1年生と同じ場所となっており、自然に関わりが持たれている。</li> <li>○中学部は、隣にある中学校との交流も行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○始業式、終業式、集会活動(全校音楽、全校体育等)と一緒に参加</li> <li>○音楽会や運動会、文化祭にも参加。音楽会では、学校の一員として1ステージを受け持つ。</li> <li>○昇降口に、児童生徒の作品が日常的に展示されている。</li> <li>○清掃の時間には、小中学校の児童、生徒が共に活動している。</li> <li>○小学部には、低学年児童を中心に遊びに来る。保育園で一緒だった児童が、遊びに来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○休み時間には、隣の教室の1年生が遊びに来て、日常的に関わりが持てている。教室前の遊具には、1年生以外の児童も遊びに来る。</li> <li>○掃除の時間には、掃除の分担になっている2年生と5年生が毎日掃除に来て、共に掃除を行っている。</li> <li>○分教室児童が、小学校廊下等の清掃を分担し行っている。</li> </ul>
	学習(例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽会、運動会は、当初小学校の行事に参加する形であったが、今は、小学校の共催の形をとっている。</li> <li>○小学校6年生が、劇の発表を行う。1年生の交流として練習してきたものを支援学校の友だちにも見てもらおうと実施。支援学校の友だちのことをよく理解した上で交流できている。</li> <li>○中学部 クリスマス会の練習：生徒一人ひとりの得意を生かした発表内容となるよう工夫されていた。</li> </ul>	生活単元学習(テーマを設定した活動) <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学部 お店屋さん：空き時間の小中学校の職員がお客さんになり、活動に参加。個々の児童に合わせた声がけ・対応をしていた。</li> <li>○中学部 季節に合わせた活動：正月飾りの制作。一人ひとりの得意分野を生かし制作を分担。地域の道の駅で販売予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交流の機会が多く、充実している。</li> <li>▲学校行事、副学籍校の行事、小学校行事と連続する時期(運動会等)には、回数が多くなり、児童の負担となることもある。</li> <li>○終業式での発表が位置付いており、特別支援学級児童と共に発表を行っている。</li> </ul>
通学		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝は、保護者の送迎がほとんどであり、下校は放課後等デイサービスの利用もある。</li> <li>・始業時刻は、小学校と同じとしている。</li> <li>・中学部生で早めの登校をする生徒がいるが、校舎入口が開くまで一人で待ってられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝は、本校のSBに乗車して登校。始業時間を小中学校に合わせているためSBの利用が可能。</li> <li>・放課後は、ほとんどの児童生徒が放課後等デイサービスの送迎を利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校のSBを利用して登校する児童が4名。小学校の始業開始に合わせている。</li> <li>・放課後は、放課後等デイサービスを利用する児童生徒が多い。</li> </ul>

職員間	<p>○同じ学校の職員として日常的に交流がある。</p> <p>○職員の特別支援教育への理解も進んでいる。</p> <p>▲知的特別支援学校の指導経験のある教員が少なくなってきたため、研修等を計画的に行う必要がある。</p>	<p>○小中学校の校務分掌に分教室教員が位置付く。</p> <p>○分教室の活動に、小中の職員を招き一緒に活動している。</p> <p>○小・中学校の職員研修の依頼を受け、本校から職員を派遣。</p> <p>○日常的に支援の相談を受ける。</p>	<p>○日常的に、小学校職員から児童生徒の相談がある。</p> <p>○自立活動担当教諭が、小学校教諭の研修を実施。</p> <p>○本校から、自立活動担当教諭が終日授業に来て専門的な指導を行う機会が組まれている。</p>
保護者の就学に対する意見（分教室を選んだ理由や不安に感じたこと）等	<p>○須坂市の保護者は、ほとんどが須坂支援学校を選択している。地域の小学校、須坂支援学校、長野養護学校と選択肢があり、その中の一つである。</p> <p>○小学校と一緒にすることで、日課が細かくなり、子どもにとって分かりにくい」と県立の特別支援学校等を選択された例もある。</p>	<p>○保護者の多くは、地元小中学校、分教室、本校を見学し、分教室を選択</p> <p>①言語環境に魅力を感じ分教室を選択。</p> <p>②同年代の友だちと過ごすことを大切に分教室を選択。</p> <p>③同学年の友だちの集団での生活を大切に分教室を選択したい。</p> <p>○寄宿舎の利用を考え、中学部から本校へ入学した生徒もいる。</p>	<p>○本校、分教室、居住地校をそれぞれ見学・体験等を通して選択することができる。</p> <p>○居住地の近くで、専門的な教育を受けることができることを優先し、選択。</p>
市町村教委連携	<p>○給食センターが、シュレッダーバサミや食器の消毒洗浄等に対応していただいている。</p>	<p>○休養室の利用や施設面の利用について、教育委員会から小中学校に文書で通達をいただいている。</p> <p>○学校医のご厚意で、健診を小中学校の児童生徒に合わせて実施していただいている。</p>	<p>○市町村教育委員会と保護者が意見交換をする機会を設けている。</p> <p>○保健師等定期訪問有</p> <p>○医師会の了解のもと、分教室での歯科検診が実施可能となった。（歯科、内科検診）</p>
今後の見通し児童生徒数	<p>○須坂市「すこやか相談」により、状況を把握している。年中幼児から、把握することができている。</p>	<p>○年中・小5の幼児、児童については、体験や相談の希望があるため把握できる。</p> <p>▲長期的な見通しは、保健師さん等から情報を得ないとすぐには分からない。</p>	<p>○南部地域の教育相談担当を置いたこともあり、教育相談が増加傾向</p> <p>○▲来年度、小学部人数が増加の可能性有。（教室が手狭になる可能性有）</p>
課題等	<p>○小学校と隣接していることから、特別支援学校から特別支援学級への学びの場の見直しがスムーズに進んだ。また、見直した後の様子も把握しやすい。</p> <p>▲職員の異動により、専門性の担保が課題となる。研修の機会等を設けているが、研修では学びきれない日常的な対応等の専門性を担保することが難しい。</p>	<p>▲教室、作業室の利用が基本であるが、もう少しスペースのゆとりがあるとよい。</p> <p>▲小・中学部1部屋であるが、人数が増加した場合教室を2つ使う事ができない。</p> <p>▲学校長決裁、校務システム等で本校に行かないといけないことがある。改善できるとありがたい。</p>	<p>▲人数の増加に伴う課題（利用教室や活動スペースについて）対応できるのか、小学校と検討していく必要がある。</p> <p>▲本校でないとできないシステムがあり、改善できるとありがたい。</p>

## 2 設置による成果

○ 通学の利便性向上を目的に設置しているが、インクルーシブな教育を推進する上で以下のような成果がみられる。

- 1 分教室児童生徒と通常学校児童生徒との日常的な関わりにより、相互理解・共生が促進されている。
- 2 地域における特別支援教育のセンター的機能（教育相談、職員研修）が充実している。
- 3 P T A活動、学校行事等により、保護者・地域住民等の理解啓発が推進されている。
- 4 就学段階における学びの場の選択ができる。
- 5 県立分教室：本校の自立活動教諭による専門性の担保が行われている。  
市立支援学校：就学後の学びの場の見直しがスムーズに行われている。

※ いずれの分教室や支援学校も市町村の十分な理解・協力が得られている。

## 3 課題

- 1 児童生徒の増減による運営面の課題（分教室の活動スペースの確保等）がある。
- 2 保健室の利用、保健行事等、児童生徒の安心安全の保障について解決する必要がある。
- 3 職員の専門性を担保（人事異動等）する必要がある。